

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2008年 9月

## ISO/TC61(プラスチック)/SC12 (熱硬化性材料) 分野の最近の動向

### 1. ISO/TC61/SC12 の構成

ISO/TC61/SC12 は、熱硬化性材料関係の規格の制定・改正等を担当する。幹事国は、日本で日本プラスチック工業連盟が国際幹事を2004年より受諾している。議長も日本(末松征比古氏:天昇電気工業株式会社)が受諾している。Pメンバー(投票権有)は、16カ国で昨年より1カ国減少しOメンバー(オブザーバ)は、15カ国で昨年より1カ国減少した。表1のように四つのWG(作業グループ)が活動している。

WGのコンビナーは、WG1、及びWG2は空席、WG5はエポキシ樹脂技術協会の事務局長、栗田邦夫氏が、WG6はDr.Tomas.Conti (USA, Bayer社)が務めている。

昨年、第56回ISO/TC61年次国際会議は、インドのゴアで開催された。ここでは、同会議以降の主たる国際規格の制定・改正審議状況及び課題をWG(作業グループ)別に記述する。(規格の名称は簡略して示す。)

尚、第57回ISO/TC61年次国際会議は、アメリカ・オーランドで開催されこれらの課題について審議する予定である。

### 2. WG1 (熱硬化性樹脂成形材料)

#### (1) ISO 2577: (プラスチック-熱硬化性成形材-収縮量の測定)

表1 TC61/SC12 の WG

WG	コンビナー	タイトル
WG 1	空席	熱硬化性樹脂成形材料
WG 2	空席	フェノール樹脂
WG 5	日本(JISC)	エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂
WG 6	USA(ANSI)	ウレタン原料

2005年のSystematic Review(定期見直し)でアメリカより改訂要求があり日本がPL(プロジェクトリーダー)となって改正を行っていたが、2007年12月に発行された。

(2) 2008年のSystematic Reviewで4つの規格が投票されたが、いずれも確認となった。

### 3. WG2 (フェノール樹脂)

2008年のSystematic Reviewで4つの規格が投票されたが、いずれも確認となった。

### 4. WG5(エポキシ樹脂、不飽和ポリエステル樹脂)

#### (1) DIS21627-1~3 (プラスチック-エポキシ樹脂の塩素含有量の求め方 1部~3部)

昨年のゴア会議にて日本が改正提案(対応JISと整合化する。)を行い、CD段階からの改正とすることが議決され、現在、DIS投票中である。

オーランド会議の直前(9月17日)に結果が判明し、コメントが寄せられた場合、オーランド会議にて審議する予定である。

#### (2) NWIP (新期提案)

ゴア会議で日本が、DSCを用いた未硬化エポキシ樹脂の硬化度の求め方についてプレゼンを行い、オーランド会議でNWIPとして投票へ進むべく審議用のドラフトテキストを提出する予定である。

(3) 2008年のSystematic Reviewで4規格が投票され、投票の結果、内3規格が確認とされたが、ISO 18280(エポキシ樹脂-試験方法)は日本から改正要求があり、オーランド会議で審議後結果を確定する予定である。

## 5. WG6 (ポリウレタン原料)

### (1) ISO25761 (ポリウレタン用ポリオール-全アミン量の求め方)

アメリカの提案であるが、日本が全面的に協力して開発してきた規格である。この度、DIS 投票で 100%の承認を得たので、FDIS をスキップし 2008 年 5 月に発行された。

### (2) PRF 26603 (ポリウレタン用芳香族イソシアネート-全塩素量の求め方)

これも、アメリカ提案の規格であるが、同様に日本が全面的に協力して開発してきた規格である。この度、DIS 投票で 100%の承認を得たので、FDIS をスキップすることとなり、現在校正中である。

### (3) FDIS 14896 (ポリウレタン原料-イソシアネート含有量の求め方)

一昨年横浜会議にて、この規格の使用溶媒の適正化のため Amendment の発行を決め、発行されたが、更に修正の必要があるとの意見が、ゴア会議で出され審議の結果、この規格を DIS から改正することとした。現在 FDIS 投票の準備中である。

## 4. JIS 関係状況

SC12 の国内委員会の構成団体では、ISO 規格の JIS への整合化を進めている。

エポキシ樹脂技術協会では、JIS K 7147:2008 (エポキシ樹脂-試験方法、対応国際規格：ISO 18280) が発行され、現在では、JIS K 7238-2:2002 (エポキシ樹脂-第 2 部:試験片の作製及び特性の求め方、対応国際規格：ISO 3673-2) の改正作業を進めている。

ウレタン原料工業会では、ウレタン原料の ISO 規格への整合化を進めており、平成 19 年度は JIS K 1557-6 (ポリオール試験方法-第 6 部：近赤外(NIR)分光法による水酸基価の求め方、対応国際規格：ISO 15063) 制定の作業を、平成 20 年度は ISO 15064 (TDI の異性体比率の求め方) 及び ISO 26603 (イソシアネートの全塩素の求め方) の JIS 化を行っている。

(以上)